

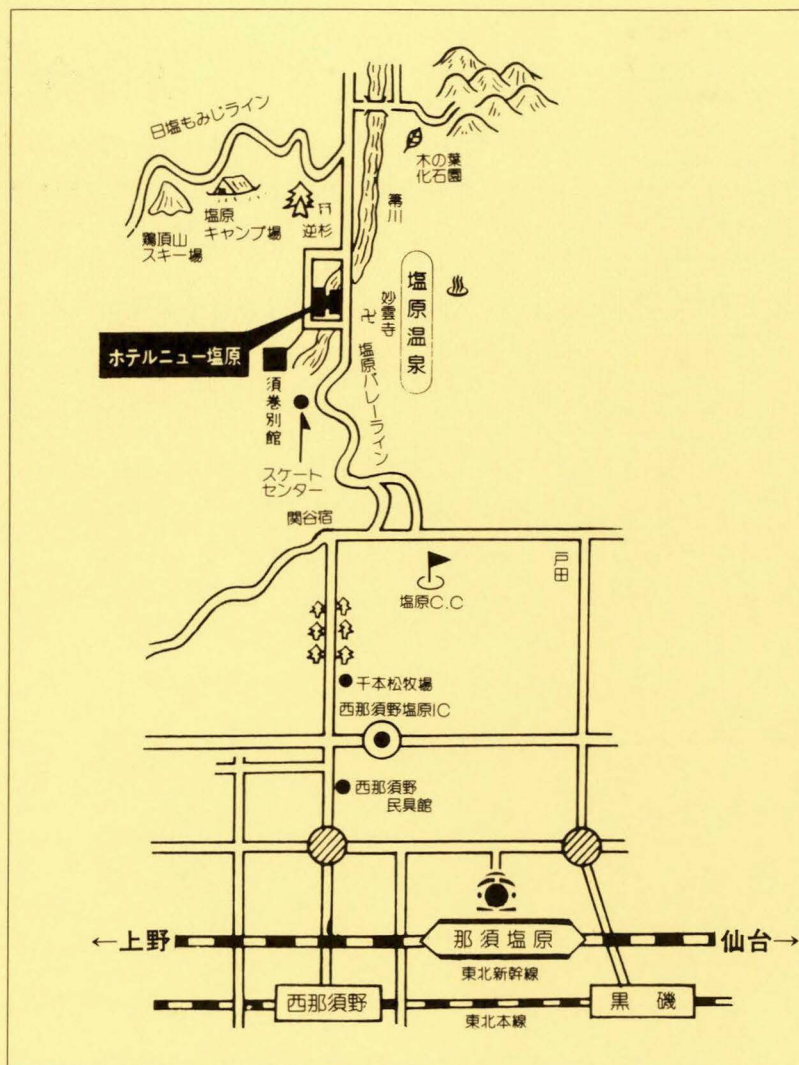
第17回 職業アレルギー研究会

1986年 7 月18日(金)～19日(土)

於 塩原温泉「ホテルニュー塩原」

会長 獨協医科大学アレルギー内科  
教授 牧 野 莊 平

## 会 場 案 内



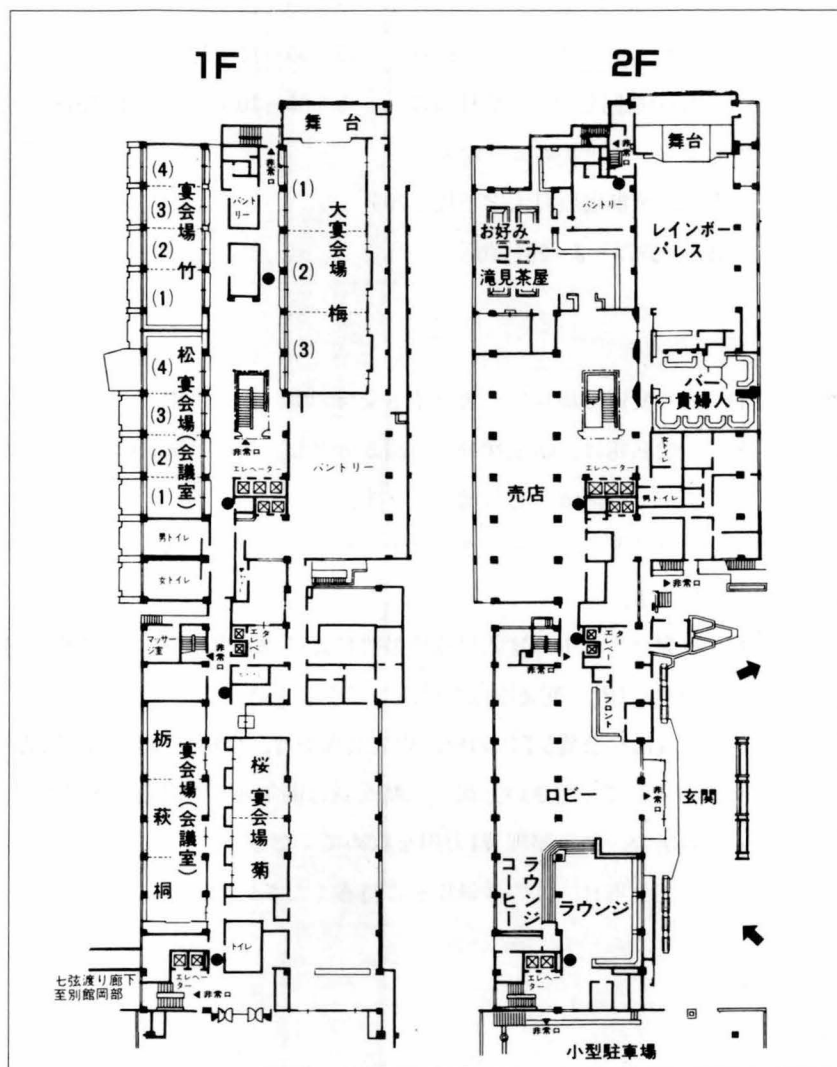
会 場 塩原温泉「ホテルニュー塩原」

栃木県那須郡塩原町下塩原705

T E L (02873) 2-2611(代)

会場へは 国鉄・東北新幹線那須塩原駅よりバス約50分

# 会 場 内 案 内



- 研究会場 2F レインボーパレス
- 懇親会場 1F 松の間
- 昼食会場 1F 松の間
- 世話人会場 1F 桐の間

## 第17回職業アレルギー研究会 実施要領

1. 会 期 1986年7月18日(金)～7月19日(土)

一般研究発表 7月18日 13:00～15:30

シンポジウム 7月18日 15:50～17:50

Dr. Reedを囲む会 7月19日 9:00～10:30 (参加自由)

2. 会 場 塩原温泉「ホテルニュー塩原」

栃木県那須郡塩原町大字下塩原705

TEL 02873-2-2611(代)

3. 参会の方へ (1) 演者変更の場合は、スライド受付の際、係へお申出ください。

(2) 一般演題は、講演10分、討論5分とし、進行は座長にご一任いただきますが、時間厳守をお願いします。

(3) スライドプロジェクターは1台です。スライドは原則として10枚以内とします。

(4) 研究会当日中に雑誌掲載用最終抄録(1,200字以内、図表2枚以内)および100語以内の英文抄録を提出してください。

(5) 会員は年会費5千円その他、研究会参加時、会場整理費として1万円を当日納入してください。尚、臨時会員は例年通り会員随員1名だけとし、この場合、会場整理費1万円を収めてください。

(6) 研究会当日、この抄録集をご持参ください。

## 第17回 職業アレルギー研究会日程

7月18日(金)	7月19日(土)
	9:00
	Dr. Reedを囲む会 (参加自由)
	10:30
11:00	11:00
世話人会	バスにて (解散) 東北新幹線那須塩原駅へ (所要時間約50分)
12:00	
昼食	
13:00	
一般演題 (10題)	
15:30	
休憩	
15:50	
シンポジウム 「各国での職業アレルギー —日本, 韓国, 米国—」 (3題)	
17:50	
総会	
18:10	
休憩	
19:00	
懇親会	
21:00	

世話人会 (11:00~12:00)

開会のあいさつ (12:55~13:00)

会長

牧野 莊平

## 一般講演

SECTION (I) (13:00~13:45) 座長 県立広島病院内科

城 智彦

### 1. 職業性レタス喘息の一症例

佐久総合病院アレルギー科

堀 俊彦  
大山 碩也

### 2. けやき材に起因すると考えられる職業性喘息の検討

岡山大学第2内科 高橋 清

木村 郁郎

### 3. 椎茸栽培取扱業者におけるアレルギー疾患の研究

#### 第2報

椎茸選別包装事業所における検診成績と椎茸胞子喘息例の報告

大分大学保健管理センター内科

大分医科大学

公衆衛生医学教室 青野 裕士

浜松医療センター耳鼻咽喉科

中村 晋  
西園 晃  
荒記 俊一  
宇佐神 篤

SECTION (II) (13:45~14:30) 座長 (大分大学保健管理センター内科)

中村 晋

### 4. 減感作療法が著効したウシ毛喘息の1例

岩手医科大学第3内科

小林 仁  
小原 一雄  
田村 昌士

吉田 順子  
谷藤 幸夫

滝沢中央病院内科

光井 庄太郎

### 5. 馬アレルギーの1症例

都立駒込病院

アレルギー膠原病科

杉山 温人  
猪熊 茂子

中野 啓一郎

### 6. 獨協医大アレルギー内科におけるモルモット・アレルギー調査

獨協医科大学アレルギー内科

湯川 龍雄

寺師 義典

渡辺 茂男

石山 康子

大橋 裕二

山井 孝夫

小原 一弘

大塚 智博

安東 直彦

来栖 博

石井 光

池森 亨介

福田 健

天下井 正弘

沼尾 利郎

阿久津 郁夫

山田 吾郎

牧野 莊平

SECTION (III) (14:30~15:00) 座長 群馬大学第一内科

笛木 隆三

### 7. Hexamethylene diisocyanate (HDI) が原因と思われる

自動車塗装業者に発生した職業性喘息の1例

長崎大学第2内科

浅井 貞宏  
渡辺 尚平  
原 耕平

犬山 正仁  
坂本 裕二

### 8. 瞬間接着剤による気管支喘息患者の1例

国立相模原病院

臨床研究部

須甲 松伸  
油井 泰雄

早川 哲夫  
信太 隆夫

SECTION (Ⅳ) (15:00~15:30) 座長 国立病院医療センター

可 部 順三郎

9. 重合抗原によるホヤ喘息の減感作療法

県立広島病院内科  
広島県佐伯郡廿日市町  
広島市已斐町  
大竹市本町

城 智 彦  
勝 谷 隆  
大 塚 正  
坪 井 信 治

10. ホヤ喘息における試験管内ヒスタミン遊離

岩手医大第三内科

大 坊 中  
北 沢 俊 一  
田 村 昌 士

谷 藤 一 生  
小 室 淳

県立広島病院第三内科  
広島県佐伯郡廿日市町

城 智 彦  
勝 谷 隆

休 憩 (15:30~15:50)



シンポジウム (15:50~17:50) 座長 国立療養所南福岡病院

長 野 準

獨協医科大学アレルギー内科 牧 野 莊 平

各国での職業アレルギー — 日本, 韓国, 米国 —

1. 日本での職業アレルギー

獨協医科大学アレルギー内科

池 森 亨 介

2. 韓国での職業アレルギー

Chein Soo Hong, M.D.

Department of Internal Medicine Yonsei University

3. 米国での職業アレルギー

Charles E. Reed, M.D.

Allergic Diseases and Internal Medicine Mayo Clinic.

総 会 (17:50~18:10)

閉会のあいさつ

会 長

牧 野 莊 平

## 一 般 演 題

SECTION(I)

13:00~13:45

座長 城 智彦(県立広島病院)

### 1. 職業性レタス喘息の一症例

佐久総合病院アレルギー科

堀 俊彦 大山碩也

レタス栽培従事者中に、収穫期に一致して喘息発作、接触性皮膚炎の増悪を認める例を見出し、若干の検討を行なった。

症例は65才男性で、皮膚炎は約20年、また喘息は12年前からみられる。IgE RIST 908 IU/ml。皮内反応はカンジダのみ陽性、RASTではダニ、カンジダを含め全て陰性であった。レタス茎汁アルコール抽出液によるパッチテストは沈殿、上清とも(++)であったが、葉そのものでは(-)であった。同じ茎汁からCoca法で抽出した抗原を用いた皮内反応は、沈殿 $10^{-6}$ 、上清 $10^{-6}$ 、同じくRASTは1.8および0.6PRUであり、前者による吸入誘発試験では $10^{-4}$ で喘鳴が出現しFEV<sub>1.0</sub>は12.2%減少した。以上より本症例は、主にレタス茎汁の沈殿(凝固)物に含まれる成分による即時型アレルギー性喘息と思われた。

<MEMO>



## 2. けやき材に起因すると考えられる職業性喘息の検討

岡山大学第2内科

高橋 清 木村郁郎

けやき材の木工粉塵により発病したと考えられる職業性喘息は56例中3例、アレルギー性鼻炎は8例にみられた。そのうち定型的な1症例を提示する。

症例：35才男、(既往歴)小児期にじん麻疹。(家族歴)長女が小児喘息、伯父が喘息。(現病歴)昭和37年より杉の製材作業に従事していたが、昭和52年から時折けやき材の研磨作業を手伝い初め、昭和57年作業頻度に相関して喘息発作を認めるようになった。(検査成績)気道過敏性試験 $1250\mu\text{g Ach/ml}$ 、IgE  $154\text{U/ml}$ 、皮内反応はHD即時型陽性、RASTscoreダニ(1+)、抗IgE添加による好塩基球の反応性は著明亢進。

(まとめ)本症例の発症には、けやき材が抗原となるI型アレルギー反応に基く機序が想定された。

〈MEMO〉

### 3. 椎茸栽培・取扱業者におけるアレルギー疾患の研究

#### 第2報 椎茸選別包装事業所における検診成績と 椎茸胞子喘息例の報告

大分大学保健管理センター内科

中村 晋

大分医科大学公衆衛生医学教室

油布文枝 西園 晃

青野裕士 荒記俊一

浜松医療センター耳鼻咽喉科

宇佐神篤

一昨年の本研究会で大分県下の椎茸栽培並びに選別包装に従事する業者のアレルギー症状に関するアンケート調査成績を報告し、鼻症状、呼吸器症状、眼症状を訴えるものが多く、選別包装従事者の有症率が有意に高いことを報告した。今回は上記選別包装を行う2事業所の女子従業者18名に面接、診察及び皮内反応を実施し、鼻、結膜及び気管支のアレルギー症状出現率はそれぞれ72%、77%及び44%で対照群(30名)に比し有意に高かった。椎茸胞子エキスによる皮内反応陽性率は33%で対照群に比し有意に高かったが、乾椎茸エキスについては有意差がなかった。われわれは更に特異的IgE証明のため集検的RASTを試みたがRAST-discへの抗原吸着に問題があるためか不成功に終わった。

これとは別に、夫が椎茸の路地栽培を行い作業を手伝ったり選別にたずさわると喘息発作を来す生命保険外勤の54歳女性の症例を診療する機会を得たのでその概要も報告する。

#### 〈MEMO〉

## SECTION(II)

13:45~14:30 座長 中村 晋(大分大学保健管理センター内科)

### 4. 減感作療法が著効したウシ毛喘息の1例

岩手医科大学第三内科

小林 仁 吉田順子

小原一雄 谷藤幸夫

田村昌士

滝沢中央病院内科

光井庄太郎

動物の毛や皮膚の抗原吸入による職業性気管支喘息の報告は少ない。最近我々は酪農家にみられた牛毛皮膚が原因と考えられ、減感作が著効した気管支喘息の1例を経験した。

症例は33才男性で酪農歴20年である。昭和58年5月感冒罹患後、咳、痰、呼吸困難が持続するようになり、特に牛小屋の作業の際に発作が悪化することが多かった。昭和60年5月滝沢中央病院内科に入院した。

検査所見では末梢血WBC6400(Eosin, 18%), IgE 131 IU/ml, メサコリン吸入試験陽性、牛毛皮膚に対する皮内テスト(43×41mm), RAST-score 2であった。牛毛皮膚喘息と考え、減感作療法を開始したところ、3ヶ月後より発作が軽快、改善した。

<MEMO>

## 5. 馬アレルギーの1症例

都立駒込病院アレルギー膠原病科

杉山温人 中野啓一郎

猪熊茂子

今回我々は馬によると思われるアレルギー症状を呈する症例を経験したので報告する。

症例は31歳の女性。16歳より乗馬を始め、21歳頃から馬に接触すると、くしゃみ、眼の掻痒感、呼吸困難出現。近医にて喘息と診断され、その後、変調療法を行い症状は軽快。28歳の時に東京へ転居し、夫が厩舎に勤務するようになってから再び喘息発作が出現。次第に発作が増悪するため、精査治療目的にて入院。家族歴で祖母、叔母に喘息。既往歴は特になし。好酸球4%, IgE 345 IU/ml。採取した馬のフケ、毛、唾液及びホリスター社製の horse hair danderのいずれも皮膚プリックテスト、皮内反応ともに陽性。hair dander による吸入誘発試験は既時型陽性。現在このhair danderを用いた減感作療法を行い、症状は軽快している。なお、我々のアレルギー外来受診中の患者における馬抗原陽性者の頻度及び正常者における馬抗原陽性者の頻度も現在検討中である。

〈MEMO〉

## 6. 獨協医大アレルギー内科における

### モルモット・アレルギー調査

獨協医科大学アレルギー内科

湯川龍雄 小泉一弘 福田 健  
寺師義典 大塚智博 天下井正弘  
渡辺茂男 安東直彦 沼尾利郎  
石山康子 来栖 博 阿久津郁夫  
大橋裕二 石井 光 山田吾郎  
山井孝夫 池森亨介 牧野莊平

モルモットなど小動物長期従事研究者のうち10~30%にアレルギー性鼻炎、結膜炎等が出現すると言われている<sup>1)2)</sup>。今回、我々は、当教室で実験動物として最も使用する機会の多いモルモットにおけるアレルギー調査を行ったので報告する。対象は、獨協医大アレルギー内科に所属し、実験動物としてモルモットを取り扱った経験のある医師19名(男18名、女1名)である。モルモット取り扱い経験歴は、3年以上9名、3年未満10名であった。アレルギー症状出現者はそのうちの7名で、発症までのモルモット従事期間は2~3年のものが多く、症状の内訳は、鼻炎が全例の7名、結膜炎5名、喘息様症状1名であり、そのうちの5名が取り扱い経験歴が3年以上であった。モルモット抗原によるプリックテストでは、19名中8名に陽性で、皮内閾値の範囲は、 $10^{-7}$ ~ $10^{-4}$ であった。又、対象の背景(アトピー素因)として、19名中9名にスギ花粉症、1名にH.D 外因型気管支喘息があったが、モルモットアレルギー出現者は、全例、このようなアトピー素因が認められた。アレルギー学的検査として、血中好酸球数、IgE、モルモットに対するRASTについても検討し報告する。

- 1) Gross, N.J.: Allergy to laboratory animals: epidemiologic, clinical, and physiologic aspects, and a trial of cromolyn in its management. J. Allergy Clin. Immunol. 66: 158, 1980.
- 2) Schumacher, M.J., Tait, B.D., and Holmes, M.L.: Allergy to mouse antigen in a biological research institute. J. Allergy Clin. Immunol. 68: 310, 1981.

<MEMO>

## SECTION(Ⅲ)

14:30～15:00

座長 笛木隆三(群馬大学  
第一内科)

### 7. Hexamethylene diisocyanate (HDI) が

原因と思われる自動車塗装業者に発生し

た職業性喘息の1例

長崎大学医学部第2内科

浅井貞宏 犬山正仁

渡辺 尚 坂本裕二

原 耕平

Isocyanate 類によっておこる気管支喘息としては、TDI、MDIによるものが良く知られているが塗装強化剤であるHDIによるものは非常に稀である。症例は57才男性、自動車塗装作業工。HDIを含有する塗装強化剤ハイアートハードナの使用開始8年目より喘息発作が出現しはじめた。病院内の一室にて環境誘発試験を実施したところ、HDI 含有塗料の噴霧後150分で喘鳴、呼吸困難の出現を認めた。この患者は退院後塗装作業を中止したところ喘息発作は著しく軽快した。

本邦第1例と思われる本例につき文献的考察を加えて報告する。

### 〈MEMO〉

## 8. 瞬間接着剤による気管支喘息患者の1例

国立相模原病院臨床研究部

須甲松伸 早川哲夫

油井泰雄 信太隆夫

シアノアクリレート系接着剤は、強力で簡便なため広く使われている。職業上これを使用し、喘息症状の増悪をきたす症例を経験した。57才の男性で20年前より自動車部品の製造に従事し、シアノアクリレート系接着剤を使用していた。3年前の冬ごろ鼻汁、咳、喘鳴と呼吸困難が出現。その後、接着剤の蒸気を吸入すると喘息症状が悪化するようになったため当科受診。母親と長男が喘息。好酸球増多(9%)、血清IgE値50U/ml以下、皮内テストは36種抗原に即時型反応全て陰性、5種の真菌に遅発型陽性。VC 2.96ℓ, %VC 83.4%, FVC 2.7ℓ, FEV<sub>1</sub> 1.97ℓ, FEV<sub>1%</sub> 72.9%, Ach-吸入閾値 2,500γ, シアノアクリレート吸入誘発テストで蒸気吸入直後に喘鳴が出現したが、FEV<sub>1</sub>は88.8%に低下しただけで急速に回復した。

〈MEMO〉

## SECTION(Ⅳ)

15:00~15:30

座長 可部順三郎(国立病院  
医療センター)

### 9. 重合抗原によるホヤ喘息の減感作療法

県立広島病院内科	城 智彦
広島県佐伯郡廿日市町	勝谷 隆
広島市已斐町	大塚 正
大竹市本町	坪井信治

精製抗原DはG, E抗原と同様に, 主要ホヤ抗原決定基 $\alpha$ を糖鎖上にもっているが, その分子量が小さいため, 動物においてもヒトにおいても抗体産生能が低く, 他の抗原に比して治療効果が著しく劣る. グルタルアルデヒドを架橋剤として重合D抗原を作り, 重合操作が抗原活性, 抗体産生能, 治療効果などに及ぼす影響を検討した.

重合操作により $\alpha$ 活性の低下はみられず, マウスにおいて特異IgG抗体産生能は上昇したが, ホヤ喘息例において皮内反応活性は不変, 粘膜反応活性は失活した. マウス感作時に症候的, 病理学的副作用を認めなかったため, ホヤ喘息例に対しても重合D抗原による減感作を試みている.

<MEMO>



#### 10. ホヤ喘息における試験管内ヒスタミン遊離

岩手医大第三内科

大坊 中 谷藤一生

北沢俊一 小室 淳

田村昌士

県立広島病院第三内科

城 智彦

広島県佐伯郡廿日市町

勝谷 隆

**目的：**ホヤ喘息減感作療法における遮断抗体の役割を解明する目的で、1)非減感作群について高遮断抗体価血漿添加がヒスタミン遊離に及ぼす影響および 2)減感作群について血漿除去および再添加がヒスタミン遊離に及ぼす影響について検討した。

**方法：**1)ホヤ喘息非減感作4例について、血液1mlに対し高遮断抗体価血漿を各々0.1ml, 0.3ml, 0.5ml, 0.7ml, 1ml添加後、ホヤ抗原添加によるヒスタミン遊離試験を行なった。

2)ホヤ喘息減感作11例について、血液1mlの血漿を除いたもの(血漿除去)と患者本人の血漿を再添加したもの(血漿再添加)についてホヤ抗原添加によるヒスタミン遊離試験を行なった。

**結果：**1)非減感作群において、ヒスタミン遊離率は高遮断抗体価血漿の添加量に依存して低下した。

2)減感作群において、ヒスタミン遊離率は、血漿除去で上昇し、血漿再添加で再び低下した。

〈MEMO〉

—— 休 憩 ——

シンポジウム 15:50～17:50

座長 長野 準(国立療養所  
南福岡病院)

各国での職業アレルギー

牧野 莊平(獨協医大  
アレルギー内科)

—日本・韓国・米国—

1. 日本での職業アレルギー

獨協医大アレルギー内科

池森 亨介

〈MEMO〉

## 2. 韓国での職業アレルギー

Assistant Prof. Chein-Soo Hong, M.D.

Allergy Section Department of Internal Medicine  
Yonsei University.

During the past 20 years Korea has progressively developed and become a new industrial country from an agricultural country. Table 1 shows the reported cases of occupational asthma in Korea. The most cases of occupation asthma were reported in 1980s. The first field survey of occupational diseases was done about oyster handling factories and the results were reported in 1978.

Rice is the chief food grain in Korea. There are many processing factories and rice handlers such as factory workers and shop salers. A sales woman of rice-shop developed asthma. Her asthma was induced with challenge of rice-bran extract. Many storage mites-Acarus siro-in the rice bran have been found. This finding speculates that storage mites can be an important offending allergen of asthma in rice handlers such as asthma of grain handlers in other countries.

A herb medicine handler noted frequent asthmatic attacks during finely cutting the dried bulbs of Pinelliae. He denied asthma symptoms after oral ingestion of herb medicine containing Pinelliae. His asthma was provoked following inhalation of saline extract of Pinelliae.

Shell processing for making decoration articles is an important small-industrial works from old Korea. Four out of 27 employees noted bronchoconstriction responses after inhalation of various amounts of shell powder extract in 0.4% phenolized saline. There were one early, one late and two dual responses in bronchial challenge tests.

In recent 3 years seven cases of isocyanate induced asthma were reported. All cases were sporadically developed from different factories. All of them were painters using gun sprayer of polyurethane paint. This result suggests that several hundreds cases of asthma due to isocyanate may be in Korea. For reducing development of isocyanate induced asthma, the close cooperation among workers, employers and allergists will be required.

Table 1. Reported Cases of Occupational Asthma in Korea

### Vegetable Origins

Pollens: Gardening Sister	1983
Wood dust: Western Red Cedar	
Allergy rhinitis	1982

Asthma	1986
Flour : Baker's asthma	1985
Grain dust : Rice Bran asthma ; storage mite ?	1985
Animal Origins	
Sea-squirt asthma	1978
Animal hair : Deer Keeper	1984
Silkworm : Cocoon inspector	1982
Shell-Grinders' asthma	1983
Metals	
Nickel & Zinc : metal-plating	1984
Nickel : Grinding stainless	1985
Chemicals	
TDI : Gun-Sprayer of polyurethan painting	1984, 1985
Soldering flux :	
Dusts	
Pharmacists in Hospital	1984

<MEMO>

3. 米国での職業アレルギー

Prof. Charles E. Reed. M.D.  
Allergic Diseases and  
Internal Medicine Mayo clinic.

〈MEMO〉